

特別講演 1

「日本人の食塩感受性を考慮した不老長寿の戦略」

東京都済生会中央病院 腎臓内科部長

栗山 哲 先生

日本人と欧米人との食塩摂取量の疫学研究から、日本人の食塩嗜好性が極めて強いことが知られている。この理由としてアンジオテンシノーゲン M235T 遺伝子多型の食塩感受性遺伝子 T アレルの優位性をはじめとした、遺伝学的な体液量の増加機序が考えられている。一方、食塩負荷時には心筋や腎臓での局所 RAS 活性の亢進が惹起され、臓器障害を加速していることが明らかになりつつある。臓器障害のメカニズムにおいて局所 RAS は、従来までの全身 RAS とは独立した新たな RAS として注目されている。

そこで、本講演においては、脳・心・腎などの重要臓器保護の観点から食塩負荷時の全身 RAS と局所 RAS 両者のメカニズムを解説し、加えて高脂血症、貧血、などの関与などについてもコメントし不老長寿の戦略を提案する。

また、治療戦略の観点からは ARB や ACE-I などの RAS 抑制薬の臓器保護機序を RAS 抑制、内皮細胞障害、酸化ストレスなどの点を考慮して解説する。